

東京支部長 渡邊 安 則(昭和 57 年卒)

東京支部は平成 28 年の年頭で登録している会員数は 44 人ですが、OB と現職の区別ははっきりしていません。東京は「東京友松会」として結成されて以来、教職以外の職業に就いている会員が多かったこともあって校外・校内会員の区別がありませんでした。現在、小学校や高校など数人の現職がいることは確かですが、運営上もそのことはあまり問題にしていません。また、昨年度と今年度、卒寿会員を各 2 人ご報告しましたが、すでに卒寿を迎えておられる会員も多く、今年 4 月に逝去された会員のお一人は 102 歳でした。一方でもうかなりの期間若い会員の加入がなく、高齢化が進んでいます。

会員の在住在勤は東京全域に広がっているため、集まることも容易ではありませんがそれでも毎年、6 月の第一日曜日に総会、12 月の第一日曜日に忘年会を企画し実施しています。近年は集まれる人数も少なくなりましたが、かつては百人あまりが集まる時期もありました。都内には江戸東京博物館、江戸たてもの園などさまざまな施設もあり、かつては東京各地の七福神巡りを新年に行い、また、見学会や勉強会も行っていました。こうした企画を再び実施できればと考えています。

現在では年 3 回、「東京友松の集い」という会報を発行しています。これは会員の皆様か

らの寄稿で作成するもので、近況や紀行文、時には研究成果の報告もあります。寄稿者も会員に幅広く呼び掛けています。会員向けに展覧会などの情報提供もやっています。

また、友松会本部の総会やホームカミングデー、新春のつどいの情報も、この会報を通じて提供しています。会報は、この 5 月で 85 号になりましたが、今後末永く続けていきたいと考えています。

東京在住、勤務の友松会員をどのように捜していくかが重大な課題になっています。以前は、卒業生の情報を本部に確認させていただいて案内を出していたものですが、近年は個人情報保護の流れもあって、なかなか情報が得られなくなりました。それでも、機会を見つけ、あるいは個人的な繋がりから呼び掛けたりしています。もっと、システム的に呼びかけられればと考えることもありますが、あまり欲張らずに地道に続けていきます。

現職の会員も、仕事等の関係でなかなか出られない人も多いと思いますので、総会等の日時・場所などの設定もいろいろ考えています。より幅広く会員各位の意見をいただけるようにしたいので、会報上でも呼び掛けています。本部行事への参加もふやしていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。